

## NZにおける合唱練習再開のためのガイドライン ニュージーランド合唱連盟

【報告・訳】 国際合唱連合理事 江川 善裕

「おんがく広場」に2回目の寄稿です。前回は「管楽器奏者はどうしているの?」(第30号)でしたが、今回は新型コロナウイルスの感染拡大の封じ込めに成功し、警告レベルがレベル2に下げられたニュージーランドの合唱連盟から「合唱練習再開の



ためのガイドラインを作成した」とのニュースが届いたので、それについてご紹介します。日本でも“アフター・コロナ”の合唱練習再開の参考になるかと思えます。

### 警告レベル1および2における合唱団のためのガイドライン

ニュージーランドでは5月14日に新型コロナウイルス感染症の流行情報に基づく4段階の警告レベルをレベル3からレベル2に引き下げられ、ほとんどのビジネスが再開され、国内旅行も含めて移動も自由になりました。

\*レベル2 = 具体的には、博物館・図書館などの公共施設が再開され、カフェやレストランでの飲食、映画館などの営業が認められるほか、国内を移動することや、結婚式や葬儀等には10人まで参加でき、親しい友人や家族は10人以下で交流することが可能になります。また5月18日には学校も再開されるほか、バーやナイトクラブは21日以降に営業再開が認められます。

その前日、ニュージーランド合唱連盟(NZCF)が、ZoomとYouTubeを使って、ニュージーランドの疫学の第一人者マイケル・ベイカー教授とQ & Aセッションを開催しました。ベイカー教授は、ニュージーランド保健省のCOVID-19専門委員会のメンバーです。ベイカー教授自身は歌手手ではありませんが、ご家族(妻、息子、娘)が合唱団で歌っています。

同連盟会員からの質問は、事前にベイカー教授に送られ、NZCF 理事長のジュリエット・ドリーバー、NZCF 指揮者協会理事長のデイヴィッド・スクワイア、NZCF 最高運営責任者のクリスティーン・アーガイルの各氏によって提示されました。

### 現在のレベル2の制限について

・一般(市民)合唱団は教会と同じ制限となり、現時点では

最大10人が一緒に練習を行うことができる。(この人数は5/25に見直しされ、増える可能性はある。)

- ・学校の合唱団は、教育省のガイドラインに従うことになる。学級の人数が許可されているが、ソーシャル・ディスタンスが求められる(一般的なニュージーランドの1クラスの人数は20人以下)。学校での合唱練習が再開されるかどうか分からない場合は各学校の校長(または教育委員会)に問い合わせる必要がある。
- ・各地域の少年少女合唱団は、集会に関する制限の対象になる(つまり現時点では10人以下)。映画館やレストランに行くことは、その場所に10人を超える人が集まることになるが、それは政府のガイドラインのとおり。

ほとんどの合唱団は、レベル2の制限が緩和されてより多くの人数での集会が許可されるまで、または、レベル1(制限人数がない)になるまで、リハーサルを行うことができないでしょう。

### 一般的に考察すべき事項

歌うことは、話しをすることや笑うことよりも大きなリスクをもたらします。私たちが歌うとき、より多くのエアロゾルと飛沫が排出されますが、それでも咳やくしゃみをするときほど多くはありません。

ニュージーランドの状況は、ウイルスが蔓延している米国やヨーロッパの状況とは大きく異なります。ニュージーランドでの感染拡大のリスクははるかに低いですが、それでも、接触した人がウイルスを運ぶ可能性があるため、必要に応じて予防策を講じ、政府のガイドラインを守ることが重要です。

警告レベル2で考慮すべき重要な要素は次のとおり。

- ・強さ(歌うことと話しをすることの違い)
- ・人数(政府の制限に従うこと)
- ・時間(リハーサルを最大2時間に制限する)
- ・距離を空ける(歌手は2メートル離れて立つ必要がある)

警告レベル1では、ほとんどの制限が解除され、境界線と接触者の追跡(トレース)に重点が置かれます。また警告レベル1では、ウイルスが封じ込められるため、通常のリハーサルの練習を想定した場合でも安全であると考えられています。

リハーサルが安全でない場合、他の方法で大規模なグループの中で交流することも安全ではなく、ニュージーランド

はレベル 3 または 4 に再び入ります。合唱団は、リハーサルを再開しても安全かどうかを判断するために、政府のガイドラインに従う必要があります。いずれの警告レベルでも、70 歳以上の人（歌手）または基礎疾患のある人は、潜在的なリスクについて独自に判断する必要があります。

（資料）

### 警告レベル 1 およびレベル 2 におけるリハーサルを行うための NZCF ガイドライン

ほとんどの合唱団は、レベル 2 の制限が緩和されてより多くの人数での集会在許可されるまで、または、レベル 1 (人数の制限がない)になるまで、リハーサルを行うことができません。

注意：NZCF の私たちは医療や法律の専門家ではありません。医学的または法的アドバイスとして受け取らないでください。これらのガイドラインは、ニュージーランド政府のガイドラインと、マイケル・ベイカー教授からの助言に基づいています。このページは、政府のガイドラインが変更されたときに更新されます。

警告レベル 2：すべてのガイドラインが適用される

警告レベル 1：歌手の間隔、練習時間の長さ、身体的接触について緩和される

### 体調が悪い場合は家にいること

合唱団の運営陣は、体調不良の兆候を示している歌手を練習に参加させない必要があります。

### 連絡先の追跡

練習室の出入口に入館名簿を置き（記入の際には自分のペンを使うこと）、連絡先リストが最新のものになっていることを確認します。

### 手を洗う・消毒する

練習室のドアとトイレに、手洗い喚起と手指消毒用アルコールが置いてあることを確認します。

### 間隔をとる

歌手の間隔は 2 メートル。指揮者は、可能な限り合唱団から離れたところに立つこと。円陣で歌ってはいけません。すべての歌手は前を向く必要があります。

### 練習時間の長さ

ウイルスの影響を少なくするために、2 時間に制限してください。（政府のガイドラインに基づくもの）

### 練習室の換気

室内温度は最低 18℃で、十分な換気を確保してください。

### お菓子や飲み物

練習前、練習中、練習後にお菓子や飲み物を共有しないこと。

### 物理的な接触を制限する

歌手は楽譜やフォルダを手渡ししてはいけません。楽譜を配付する必要がある場合は、配付する楽譜に触れる前に、手指消毒用アルコールを使った 1 人または 2 人で行う必要があります。

2020 年 5 月 15 日

The New Zealand Choral Federation

ニュージーランド合唱連盟

Christine Argyle, Chief Executive

最高運営責任者 クリスティーン・アーガイル

### 【江川 善裕 EGAWA Yoshihiro Profile】

山形県米沢市出身。武蔵野音楽大学卒。米国・ノースウエスタン大学大学院修士課程修了。フリーのサクソ奏者・講師を経て、全日本吹奏楽連盟事務局主事、全日本合唱連盟事務局次長を歴任。現在、国際合唱連合理事。日本サクソフーン協会会員。サクソフーン四重奏団「J-SAXER QUARTET」主宰。1990 年から鷲宮ウインドアンサンブル創設指揮者。2013 年から熊谷吹奏楽団副音楽監督。2018 年から PRO WiND 023 メンバー。

### 「ソーシャルディスタンス」を考える！

コロナ対策で、人と人の距離をとるソーシャルディスタンス social distancing は、日常でもスーパーの行列などでだいぶ慣れてきました。余談ですが、我われがいうソーシャルディスタンスは公衆衛生用語で、感染拡大防止のために人と人が物理的距離を保つことです。しかし、特定の個人・グループを排除するという社会学用語の social distance とは異なるので要注意です…。

具体的な距離基準は国や機関によって幅があり、WHO は 1m、オーストラリアは 1.5m、米国 6 フィート(約 1.8m)、英国 2m などですが、日本はほぼ 2m でしょうか。

ところで、ネットや SNS の普及で人びとが物理的に集まらなくても交流は可能になっていますので、WHO も最近、social distancing の代わりに **physical distancing** を使い始めたそうです。

(加藤良一)